

## 講義要項(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術			授業方法	講義・演習		
担当教員名	小林 直竹			必修・選択	必修	単位数 4単位	
学科	介護福祉科	学年・時期	1年 半期(前期)		回数	30回	
担当教員の実務経験	<p>看護師として病院・施設で多様な患者・家族と関わり、観察・傾聴・非言語理解・多職種連携を日常的に実践してきた経験を有する。その経験を活かし、授業では利用者の心理や背景を踏まえたコミュニケーションの重要性を具体的事例とともに指導する。特に、認知症や終末期など、状況に応じた関わり方を学生が実践的に学べるよう重視している。</p>						
<p>授業の目的及びねらい</p> <p>利用者の尊厳を保持し、その人らしい生活を支えるための「対人援助技術」の基礎を習得する。単なる日常会話ではなく、利用者の心身の状況、家族の心情、多職種チームの動向を的確に捉え、意図的かつ倫理的に働きかける能力を養うことを目的とする。</p>							
<p>授業終了時の到達目標</p> <p>信頼関係がつけれる：相手の話を否定せず、「傾聴・受容・共感」の態度で聴き、安心感を与える関係を築けるようになる。</p> <p>言葉と体で伝えられる：言葉選びだけでなく、表情、視線、声のトーンなどを使い分け、相手に正しく情報を伝え、受け取れるようになる。</p> <p>相手に合わせた工夫ができる：認知症や耳が聞こえにくい方など、それぞれの特性に合わせた「伝わる方法」を選んで実践できるようになる。</p> <p>チームで情報共有ができる：現場に必要な「報告・連絡・相談」を的確に行い、事実に基づいた分かりやすい「介護記録」が書けるようになる。</p> <p>自分を振り返ることができる：自分の性格やコミュニケーションの癖を理解し、専門職として冷静で思いやのある対応ができるようになる</p>							
回数	各回のテーマ・内容					授業以外の事前準備 学習内容	
1	<p>1-1 介護におけるコミュニケーションの意義と目的</p> <p>ねらい：介護における対人関係の本質と、専門的援助としての目的を理解する。</p> <p>学習内容：コミュニケーションの定義、介護における意義、目的、展開過程の概要</p>					適宜、指示します。	
2	<p>1-2 コミュニケーションの果たす役割</p> <p>ねらい：介護福祉職の職務におけるコミュニケーションの重要性を認識する。</p> <p>学習内容：情報収集・共有の役割、介護福祉職の職務とコミュニケーションの関連。</p>					適宜、指示します。	
3	<p>演習1-1 介護におけるコミュニケーションの役割</p> <p>ねらい：現場での具体的な役割をシミュレーションし、対話の重要性を実感する。</p> <p>学習内容：事例を通じた役割演技(ロールプレイ)と、グループでの気づきの共有。</p>					適宜、指示します。	
4	<p>1-2 介護福祉職のコミュニケーション支援の対象</p> <p>ねらい：利用者の生活背景や心身の状況に応じた、支援対象の多様性を理解する。</p> <p>学習内容：利用者の個別性、家族や地域社会を含む支援対象の広がり。</p>					適宜、指示します。	

5	1-3 援助関係の特徴と構築するための原則 ねらい:信頼関係(ラポール)を築くための専門的な基本原則(バイスティック等)を学ぶ。 学習内容:援助関係の定義・特徴、バイスティックの原則の基本概念。	適宜、指示します。
6	1-3 介護における援助関係を意識したコミュニケーション ねらい:意図的な関わりによる関係構築技法と、自己覚知の重要性を習得する。 学習内容:専門的援助関係の形成、自分のコミュニケーションの癖を知る。	適宜、指示します。
7	2-1 傾聴・受容・共感 ねらい:利用者の心に寄り添い、安心感を与えるための基本的態度を身につける。 学習内容:傾聴の技法、受容的な関わり、共感的理解の定義と具体的実践。	適宜、指示します。
8	2-1 コミュニケーションにおける距離 ねらい:相手に威圧感を与えない物理的・心理的距離の取り方を学ぶ。 学習内容:パーソナルスペース、立ち位置(水平・斜め)、目線の高さの影響。	適宜、指示します。
9	演習2-1 話を聴く態度 ねらい:聴く姿勢が相手に与える心理的影響を体験し、技法を内面化する。 学習内容:良い例・悪い例の比較演習、傾聴の技法トレーニング。	適宜、指示します。
10	2-2 言語コミュニケーション ねらい:言葉による確実な情報伝達と、利用者の思いを引き出す質問技法を学ぶ。 学習内容:言葉の選び方、開かれた質問と閉じられた質問の使い分け。	適宜、指示します。
11	2-2 言葉以外を使ったコミュニケーション(非言語・準言語) ねらい:表情やしぐさが持つメッセージ性を理解し、一致した表現を学ぶ。 学習内容:表情、視線、身振り(非言語)、声のトーン・速さ(準言語)。	適宜、指示します。
12	演習2-2 感情をあらわす言葉 ねらい:相手の感情を捉え、適切に言語化して共感を伝える力を養う。 学習内容:感情語のボキャブラリー、アイ・メッセージ(私を主語にする)の練習。	適宜、指示します。
13	2-3 動機づけ ねらい:利用者の意欲を認め、自発的な行動を引き出す関わりを学ぶ。 学習内容:エンパワメント、称賛と承認、プラスの働きかけによる意欲向上。	適宜、指示します。
14	2-3 ものの見方に変化を生み出す技術(リフレーミング) ねらい:事柄の捉え方を変え、前向きな支援につなげる技法を習得する。 学習内容:リフレーミングの理論、否定的な状況を肯定的に解釈する手法。	適宜、指示します。
15	2-3 意思決定を支援するためのコミュニケーション ねらい:利用者の自己決定を尊重し、納得感のある選択を支える対話法を学ぶ。	適宜、指示します。

16	演習2-3 リフレーミングのトレーニング ねらい:短所を長所に言い換えるなど、具体的な事例で変換技術を磨く。 学習内容:カード等を用いたリフレーミングの実践ワークショップ。	適宜、指示します。
17	2-4 集団におけるコミュニケーション技術 ねらい:集団の持つ力(グループダイナミクス)と運営の留意点を理解する。 学習内容:集団の意義、種類、リーダーシップ、集団運営上の注意点。	適宜、指示します。
18	演習2-3 グループで思い出話をする体験 ねらい:集団内での相互作用と、共感が広がるプロセスを実際に体験する。 学習内容:回想法を用いたグループワークの進行とロールプレイ。	適宜、指示します。
19	3-1 コミュニケーション障害への対応の基本 ねらい:障害の原因と心理的影響を理解し、支援の方向性を定める方法を学ぶ。 学習内容:障害の原因、分類、情報収集(アセスメント)の基本項目。	適宜、指示します。
20	演習3-1 私のコミュニケーションスタイル ねらい:自分の対人傾向を客観的に把握し、相手に合わせた調整力を養う。 学習内容:自己分析ツールを用いたスタイルの確認と他者からのフィードバック。	適宜、指示します。
21	3-2 視覚・聴覚・構音障害のある人への支援 ねらい:見えにくい・聞こえにくい・話しにくい方への具体的技術を習得する。 学習内容:クロックポジション、筆談、発話の促し方と補助手段の活用。	適宜、指示します。
22	3-2 失語症・認知症の人への支援 ねらい:言葉の理解や認知機能に課題がある方への受容的な関わりを学ぶ。 学習内容:失語症の種類と対応、バリテーション等の認知症コミュニケーション。	適宜、指示します。
23	3-2 精神・発達・知的・重症心身障害への支援 ねらい:疾患や特性に応じた適切な配慮と、安心感を与える対話法を学ぶ。 学習内容:うつ病、統合失調症、発達・知的障害、高次脳機能障害への関わり。	適宜、指示します。
24	演習3-2・3-3 構音障害・失語症の人への支援 ねらい:言葉が不自由な方との意思疎通を、補助用具等を用いて実践する。 学習内容:コミュニケーションボードの活用、はい・いいえ質問の実践練習。	適宜、指示します。
25	4-1 家族との関係づくり ねらい:家族の心理的な葛藤を理解し、信頼関係を築くための支援を学ぶ。 学習内容:家族の心情理解、協働関係の構築、意向表出のサポート。	適宜、指示します。
26	4-2・4-3 家族への支援とストレス対応 ねらい:利用者と家族の意向調整や、家族の介護負担を軽減する関わりを学ぶ。 学習内容:助言・指導の視点、意向調整、家族のストレスマネジメント。	適宜、指示します。
27	5-1・5-2 チームのコミュニケーションと報・連・相 ねらい:多職種連携における正確な情報共有(報告・連絡・相談)を習得する。 学習内容:チームケアの意義、多職種連携、報・連・相の具体的な技術。	適宜、指示します。
28	5-3 記録の技術 ねらい:介護の質を保証するための、客観的かつ的確な記録の書き方を学ぶ。 学習内容:記録の意義・目的、SOAP等の書き方、事実と主観の区別。	適宜、指示します。
29	5-4・5-5 会議・議事進行・事例検討の技術 ねらい:ケア会議での意見集約や、事例を通じた問題解決の手法を習得する。 学習内容:会議の進め方、プレゼン、事例検討会の展開と問題解決手法。	適宜、指示します。
30	5-6 情報の活用と管理・演習 ねらい:チームでの合意形成を実践し、個人情報の保護と活用の倫理を学ぶ。 学習内容:演習5-3(ケアカンファレンス)、情報の管理と守秘義務。	適宜、指示します。
成績評価の方法		

授業参加・態度 :50%

授業への主体的な参加姿勢を重視して評価する。出席状況・授業中の取り組み姿勢・発言や質問などの積極性・グループワークにおける協力的態度 他者の意見を尊重しながら学びに参加する姿勢

小テスト・課題・科目評価試験 50%

授業内容の理解度を確認するため、以下を評価対象とする。

・各章末の確認テストワークシート・課題提出物 科目評価試験(筆記または実技を含む場合あり)  
知識の定着度、理解の深さ、実践への応用力を総合的に評価する。

使用テキスト・参考書等

中央法規出版『最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 I 第3版』

ここからはじめる介護福祉士国家試験スタートブック2027

教員作成資料

授業に関する特記事項(携帯電話の取り扱いや授業内のルール等)

グループワークでは互いを尊重し、積極的に参加すること。

- ・授業中の私語・飲食は禁止(水分補給は可)。
- ・教室内の撮影・録音は禁止(許可がある場合を除く)。